特別支援教育の扉 №１９５　　令和８年８月21日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「夏休み園訪問　パート2　Q&A」

１　「友達をたたく行動が見られる子どもへの対応」

相手を傷付ける行動があったときは、子ども同士を引き離し、安全を確保する。その上で、「行動のＡＢＣフレーム」を活用して、やってはいけない行動を減らす支援を検討する。

行動の前後（きっかけと結果）を客観的に整理して書き出してみる。どこを変えたらたたく行動が起こりにくくなるか、変えられるのはどの部分かを検討して新たな支援方法を試す。うまくいった支援は継続して少しずつ減らす。２回やってうまくいかなければ別の支援を検討する。

「行動のＡ（Ａntecedent）・Ｂ（Ｂehavior）・Ｃ（Ｃonsequence）フレーム」

Ａ　行動の前（きっかけ・先行状況）

外的要因（環境や言葉掛け）	内的要因（子どもの体調や気持ち）
□教室がうるさかった。 □友達が奇声を上げた。 □友達がおもちゃを貸してくれなかった。	□思い通りにならないとパニックになる。 □たたいた友達の反応が面白い。 □「貸して」と言葉で言えない。

Ｂ　行動　　友達をたたいた

Ｃ　行動の後（結果・周囲の対応）

□先生が飛んできて、注意をした。　　□教室の外に連れて行かれた。
□今している活動が中断した。　　□クールダウンスペースに行く。
□先生がつきっきりなった。　　□先生がかまってくれたことを喜んでいた。

子どもはいつも友達をたたいているわけではなく、一緒に仲良く遊んでいることもある。やってはいけない行動をしていないときに、それを当たり前と思わず、言葉でほめたり、微笑んだりして、その行動を認める。やってほしい行動が増えると、やってほしくない行動ややってはいけない行動は必ず減っていく。（当たり前は最大の敵！）

２　「行動の切り替えが難しい子どもへの対応」

こだわりがある、好きな遊びを続けたい気持ちが強い、指示を理解できなかったり、忘れてしまったりする、子どもは「今」を生きているので、次の活動に移ることが難しい。

「行動のＡＢＣフレーム」で、特に行動の前（きっかけ・先行状況）の対応を変えることが有効である。

活動する前に○時までと終わりのタイミングを明示する、活動が終わる少し前に「長い針が３になったらおもちゃを片付けてプールの準備をします」と予告をする、「レールを片付ける、それとも電車を片付ける」と、選択させる。もしどちらの選択肢も嫌だと言ったときは、もう一度同じ指示を繰り返す、子どもが提案した方法を取り入れる。

予告は、「もう少し遊べるよ」と許可を含んでいるため、子どもは気持ちを切り替える準備ができる。選択は、子ども自身が答えを決めるため、行動に移しやすくなる。



とれたて直送便





【朝を楽しい時間にしよう】

生活リズムを変えるコツは、「早寝」より「早起き」。「15分早い起床」を1週間。次の１週間は「さらに15分早く」と続けるとできるようになる。早起きすると朝食をきちんと食べるようにもなる。朝食を食べることで、体温が上昇して脳の働きも活発となり、集中力や学習能力が向上する。家族全員で朝ゆっくり時間を過ごす生活にしたいものである。